

## 子どもの社会参画プロジェクト

瀧口 優\*・安倍 大輔・本山 方子・佐久間 路子・  
庭野 晃子・山本 由紀子・井原 哲人・土川 洋子

### (1) 「子ども白書」について

白梅学園大学・白梅学園短期大学子ども学研究所の子どもの社会参画プロジェクトは、2019年度に「小平市に暮らすことについてのアンケート」（以下「アンケート」）と「小平市子どもサミット」（以下「サミット」）を行い、「サミット」で出された意見を「報告書」としてまとめ、小平市に提出した。

小平市と本学はこれまでも様々な分野において共同の取り組みを行ってきたが、2019年2月に包括連携協定を結び、「保育・教育・子ども支援・子育て支援に関すること」、「健康・福祉・生活支援に関すること」、「まちづくり・地域コミュニティに関すること」等についてより一層、連携することが確認された。こうしたことを背景に本プロジェクトは、小平市が2021年度から始まる「小平市第四次長期総合計画」を策定するにあたり、小平市に暮らす子どもたちの声を取り入れていくことを意図したものであった。

2020年度は「アンケート」を踏まえ「小平子ども白書」を作成することを予定していたが、2月からのコロナ禍で新たな調査等に取り組むことができず、2021年度に入るとりあえず「小平子どもレポート」（以下「レポート」）として小平市内の小学生、中学生に返すことになった。

「レポート」はA2版を四つ折りする形で表面の見開きに子どもたちの要望をまとめた「報告書」の全文と「アンケート」の中から「1. ふだんの活動」「2. 居場所としての小平」についてを載せ、裏面には一般社団法人観光まちづくり協会から提供された小平市の地図と「子どもたちが選んだ小

平のオススメの場所と施設、行事（イベント）」が載せてある。子どもたちは日頃市内や地域に存在している設備や行事等に対して親近感を持ち、積極的に参加する気持ちがあることが示している。

子どもの社会参画プロジェクトとして今後も子どもたちの思いや願いを実現するための取り組みをすすめたい。（瀧口優）

### (2) 『子ども学』第10号での論文掲載

2021年度に、幼少期より小平市に暮らす青年にインタビュー調査を行い、小平市で子ども時代を暮らすことの実際とその意味づけについて検討した。この調査と、2019年に小平市の小中学生に実施した質問紙調査の成果を取りまとめ、白梅学園大学・白梅学園短期大学子ども学研究所編集『子ども学』第10号（2022年5月刊行）にて公表することとなった<sup>1)</sup>。この論文では、子どもの生活圏に埋め込まれた地域資源の利用は、子どもの「生きられる空間」の創出と、社会参加・参画という点で、ローカリティを有することを明らかにしている。

1) 本山方子・佐久間路子・庭野晃子・山本由紀子・井原哲人・土川洋子（2022）「子どもの生活圏における地域資源利用のローカリティ：「小平で暮らすこと」を事例に」白梅学園大学・白梅学園短期大学子ども学研究所編集『子ども学』第10号、180-206.

\*白梅学園短期大学名誉教授